

幼児教育の質の向上と相互理解の中で育ちを繋ぐ 小学校低学年の授業充実をめざして



公立	私立	市立
● 保育園……………3園	● 保育園……………17園	● 小学校…10校
● 幼稚園……………1園	● 認定こども園……2園	● 中学校……5校
● 認定こども園…1園	● 地域型保育施設…2園	
	● 認定外保育園……3園	

令和3年度取組前の山鹿市の課題

- アドバイザー派遣の活用が少ない。
- コロナ禍で、幼・保等、小の連携がほとんどできていない。情報交換の機会も少なくなり、幼・保等と小の距離の広がりを感じている。
- 連絡会において、伝えたい内容と伝えてほしい内容にずれがある。

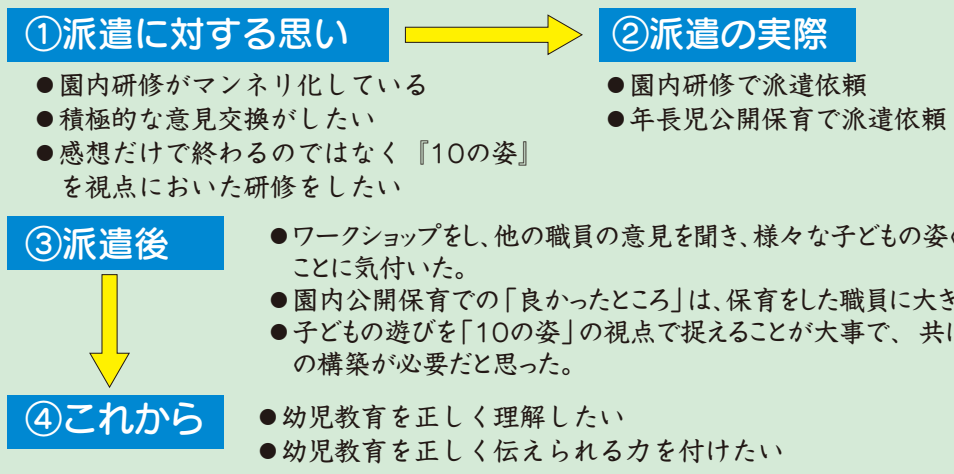
令和4年度山鹿市がめざす幼児教育推進体制

1. 施設類型を超えた幼児教育アドバイザー派遣・DVD活用
2. 幼・保等、小が合同で学び合う環境を実現するための学校教育指導室と子ども課の密な連携
3. 幼・保等、小合同研修会の開催
4. 連携の仕組みをカリキュラムに見える化

1. 施設類型を超えて

保育所でもアドバイザー活用 公開保育に自分から挑戦

園内公開保育で「10の姿」を



園長・主任研修

- ・ 私立園にも声をかけ……
- ・ 幼児教育アドバイザーを派遣して……

「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業に係る山鹿市実践研究事業について」
～令和3年度から令和4年度の取組へ～ 【園長・主任研修】

- ・ 連携・架け橋期・円滑な接続の重要性……
- ・ 参加者の感想から……

コロナ禍で隣接する小学校との交流活動や授業参観等の機会が減っている中で、できるところから連携の再開に取り組んでいきたい。



小学校の先生方と気軽に話ができる関係をつくり、お互いの教育・保育に興味・関心を持ち、相互理解を深めるためにも、幼保小での合同研修会は必要だと思う。また、自分たちの発信力をアップしていきたい。

管理職そして職員がつながることで、子どもを中心にした架け橋期カリキュラムを作成し、人(職員)が変わっても連携の取組が継続していけたらと思う。



子育て講演会で地域の課題(睡眠)改善を

①派遣に対する思い

同じ小学校に入学する地域の保育園の保護者さんとも一緒に学びたい

②派遣の実際

- 保育参観後、子育て講演会を実施
- 小学校の校長先生も講演会に参加

③派遣後

9月の「早ね・早起き いきいきウイーク」には、同じ中学校区で一緒にノーメディアチャレンジに取り組んだ。

家庭生活(家庭環境)の大切さを学びました。

- 「家族と一緒にご飯を食べる」
- 「朝ごはんをしっかりと食べる」
- 「しっかりと睡眠をとる」

子どもたちと一緒に、親の私たちも楽しみながらよい環境づくりができたらいいなと思います。



自分の行動を振り返ると、本当に反省することばかりでした。ついつい手を出して、子どもの成長の機会を奪ってしまっていたなと痛感しました。時間にゆとりをもって、自分で何でも挑戦していけるように待つ、見守ることを心がけたいです。



【早寝早起きウイーク保護者感想】

- 1歳児でもスマホやタブレットを自分で触れる環境だったが、「TVおやすみ」と言ってまごごとやお絵かきを楽しみぐっすり眠ることができた。
- 日頃から家事をする時に、テレビやタブレットに頼っていたことを反省した。

小・中学校新採者保育体験で『10の姿』を読み取る体験を

①取組に対する思い

- コロナ禍になり、小・中学校の先生たちとの連携や話し合いが少なくなっており、交流などもできていないため、つながりが見えにくい。
- 発達や学びの連続性を踏まえた教育活動を推進するため、就学前教育で大切にしていることを小学校、中学校につなげていきたい。
- 山鹿市伝統の連携を再度強化したい。

②取組の実際



③取組後

子どもたちをよく見て認め、褒め、励まされる姿は、私の目指す姿だと再認識できました。中学校に戻り、一人一人の個性や良さを最大限に伸ばせるよう頑張りたい。

園児にとって「遊びを通して学ぶ」ということが大切なんだと保育体験を通じて感じることができました。

45分間という時間の区切りがない中での指導は、とても複雑で大変なものだと思いました。今後も丁寧な引き継ぎを行い、幼小中をスムーズにつなげていくことが、子どもにとって一番大切なんだと感じました。



小学校へつながるギャップをどう埋めていくと良いかについて考え直すきっかけとなりました。

園児は、集団生活の中で基礎を学び、先生との何気ない会話の中でいろいろなことを感じて実体験へとつなげていた。先生の声かけがとても勉強になりました。

④これから

- 今後も「幼児期の終わり」までに育ってほしい姿を共有し、子どもたちの育ちをつないでいけるように、小学校や中学校に積極的に伝えていきたい。
- 小学校との交流や保育や授業の参観、連絡会などを通して、お互いの理解や連携のあり方を見直していきたい。

私立保育園 アドバイザーを活用して園内研修を継続

チラシやお知らせの段階では・・・今のままでいいのかな？



園の思い

研修がマンネリ化しているな
新しいチームづくりを・・・



活用した園の感想を聞いて

- 園内研修に幼児教育アドバイザーの派遣を申請
- 前向きに保育について語り合える園内研修を体験
- 既に4回継続中

2. 学校教育指導室と子ども課の密な連携

～合同研修会、カリキュラムの見える化の取組を通して～

R3 随時 臨時園長会
11月 幼児教育施設園長、職員に対する事業説明及び研修会



R4 義務教育課主催
5月 学校教育指導室、子ども課、全公立園長、
私立保育園園長会代表参加

6月 山鹿市幼・保等、小中連携協議会代表者会
学校教育指導室から事業説明

小中学校長会
子ども課から事業説明（学校教育指導室補足）

学校教育指導室、子ども課、
幼児教育アドバイザー合同研修会打合せ



子ども課 公私立園長・主任研修会
山鹿市幼児教育アドバイザー講話及び演習

子ども課、公立園長会代表、幼児教育アドバイザー
合同研修会年間計画作成

7月 学校教育指導室、子ども課、幼児教育アドバイザー（架け橋期コーディネーター）
第1回合同研修会打合せ

R4.7.29コロナ感染拡大により第1回合同研修会延期

8月 学校教育指導室、子ども課、園長会合同研修会年間計画再検討会



12月 学校教育指導室、子ども課、公立園長会代表、架け橋期コーディネーター
第1回合同研修会再打合せ

山鹿市幼・保等、小連携担当者合同研修会（12月26日開催）

目的

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、園長・校長のリーダーシップと自治体の支援の基、園と小学校の先生が子どもの育ちを中心に据えた対話を通して、相互理解・実践を深めていく
- 幼・保等、小が協働で共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化し、育成をめざす資質・能力を視野に入れながら、「架け橋期のカリキュラム」作成に取り組み、幼・保等、小の先生が一緒に評価、改善・発展につなぐ



内容 ● 講話及び協議 ● 「架け橋期のカリキュラム」策定に向けて

学校教育指導室

- 1月から3月までに地域の小学校がリーダーシップ 一緒に作成を
- 令和5年度の作成スケジュール、方法等の話し合いを
- カリキュラム作成が目的ではない 相互理解後の教育・保育の充実を

3. 山鹿市幼・保等、小連携担当者合同研修会

感想

小学校

- 架け橋期の重要性を改めて感じた。毎年連絡会を行っているが、気になる子どもの情報交換に終わってしまっているの、会の内容を「繋ぐ」の視点で取り組んでいきたい。
- スタートカリキュラムを作成しているが、幼・保等との連携や小学校職員間の共通理解が十分できていなかったと感じる。本年度中に相互理解を行いたい。
- 0～18歳の連続した子どもの育ちの中の2年間が架け橋期という意識をもつことが大切だと感じた。
- カリキュラムを作るという活動を通して、相互理解を進めていきたい。ともに学ぶ、ともに育てるきっかけにしたい。



幼稚園・保育園・子ども園等

- 小学校と合同で研修できたことが大変良かった。山鹿の架け橋期の子どもたちが、小学校で安心して力を発揮して学校生活を楽しく充実できるよう、皆で力を合わせて取り組んでいきたい。
- 小学校に繋げるための基礎作り。園でできること、接続を意識した保育を行っていきたい。
- 連携は方法であって目的ではないという言葉がとても響いた。幼・保等、小が一体的に子どもの教育や保育の保障をしていくことができればと思う。
- 紙面だけで終わらないよう、しっかり話し合っ作成できたと思う。小学校の先生と話を重ねられることを大変嬉しく思う。



架け橋期のカリキュラム案を作成して

- 山鹿には連携の伝統がある。それぞれしていること、してきたこと、やってみようと思っていることを出し合った。
- 文言だけでは伝わらない。顔を突きあわせて一緒に作成を。
- それぞれの教育・保育の相互理解からしか始まらない。



- 連携を誰が見ても見えるようにしたい。
- まずは、案を作成し、それを見て実践しながら更に見直していききたい。
- 架け橋期の子どもを主人公にする連携を強化したい。

2年間の取組を終えて～園長たちの声～

- ★ 山鹿市幼・保等、小連携担当者会を開催できたことで、架け橋期の充実に向け、全小学校、全園で一步踏み出すことができた。
- ★ 幼児教育アドバイザーにこれまでの保育を認めてもらったことで、保育者だけでなく園の自己肯定感が高まった。
- ★ 幼児教育アドバイザーの支援を得て公開保育後の園内研修が充実したことにより、幼児の姿を丁寧に読み取ろうとする保育者が増え、日誌の充実にも繋がっている。
- ★ 山鹿市全園が、保育の質の充実という同じ方向を向いて取り組んだことで、横の繋がりができた。
- ★ 幼児期に育っていることを小学校に積極的に伝えなければと思うようになった。相互理解が進むことで、縦の繋がりも強固になるものと確信する。
- ★ 片思いから両思いへ。まずは管理職同士が仲良くなることから始めたい。
- ★ 同じ地域の幼児を預かる者同士、公私立の枠を超えて一緒に取り組めるよう働きかけていきたい。
- ★ 同じ教育部局内に学校教育指導室と子ども課があったことが、密な連携を可能にした。組織再編に当たって、密な連携策を更に工夫していく必要がある。



令和5年2月 山鹿市教育委員会

発行 山鹿市教育委員会子ども課 ☎861-0592 熊本県山鹿市山鹿987-3 ☎0968-43-1514